

後輩育成に携わる人材育成の試み

～教育インストラクター研修の効果と課題～

倉ヶ市絵美佳 (京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター)

曾我典子、中寫真知子、橋元春美 (京都府立医科大学附属病院)

笹川寿美、山本容子 (京都府立医科大学医学部看護学科)

【目的】A 大学では、看護部と看護学科が協働し、教育プログラムの開発を行っている。そのひとつとして基礎教育から卒業 3 年目までの後輩育成に携わる人材育成のための教育インストラクター研修を企画し、平成 23 年度から実施した。研修内容の一部を報告し、その評価から今後の課題を明らかにする。

【方法】対象は、研修として看護学科の授業や経年的院内研修に参加した附属病院の看護師 7 名で、研修終了後に無記名自己記入式質問紙によるアンケートを実施した。時期は、平成 23 年 7 月。調査内容は、研修内容など 5 項目と研修に対する意見を自由記述で求めた。今回は、調査内容のうち今後への有益性、研修の有効性と研修に対する意見について検討した。研修の内容は、看護学科の治療援助技術関連科目 (2 年生配当、60 時間、2 単位、必修) における「検査時の援助技術 (演習): 採血法」で、演習時に 2 ベッド 4 人を担当し指導を行った。授業は、担当教員によるシミュレータを使用したデモンストレーション後、学生がシミュレータを使用し採血の演習を行うという展開であった。倫理的配慮として、調査への協力は自由意志であり、同意の有無に関わらず不利益を被らないことを説明し、回答のあったものを同意が得られたとした。

【結果】回収率は 100%であった。看護師の経験年数は、全員が 10 年目以上であった。今後への有益性は「大変参考になる」14.3%、「参考になる」85.7%であり、理由は「学生の現状を知ることに入職者の指導に活かそう」であった。有効性は「大変良い」14.3%、「良い」71.4%であり、「臨床と教育の差が理解できた」「臨床と教育の架け橋になることが期待できた」という意見が聞かれた。また、看護学科の授業への提案内容は、臨床看護師のデモンストレーションの導入、演習時間の延長であり、指導を通して、学生に臨床経験をもとに助言することを希望していた。

【考察】学生の臨床能力の現状を理解している人材がいることは、新人看護師指導にとって重要であり、臨床現場と基礎教育の乖離を埋めることにつながると思われる。今回のように看護師が看護学科の授業に指導者として参加することは、臨床現場と基礎教育が協働して教育を行っていく意義の理解につながり、研修の一環として有用であると考えられる。今後の課題としては、看護学科の授業に参加する場合、看護師の臨床能力を活用できるよう事前打ち合わせの段階から参画し、内容、進行等を検討する必要性が示唆された。本報告は、文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。